

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1994. **1**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 117

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 『夏鳥たちの歌は、今』を読む

海老原美夫（浦和市）

寒い冬は、ご存じのとおり、バードウォッチングには最適の季節。それでも、あまり風が強すぎたり、雪や雨がびしょびしょ降っている時などは、そう無理しないで、炬燵のなかでぬくぬくと、ミカンでも食べながら、本でもいかが。

1月号の特集記事に、『夏鳥たち……』。いいですね。どうぞしばらくおつきあいください。

## ■この本ができたのは■

1992年の夏、名著『ツグミたちの荒野』の著者として有名なノンフィクション動物作家であり、宮古支部長の遠藤公男氏から私宛に手紙が届いた。「夏鳥が年々激減している。その現実を今記録に残しておかなければならない。原稿を寄せてほしい」という内容であり、全国の野鳥の会の会員たちに呼びかけるものだった。

かねてから夏鳥の減少を感じながら、それを数字などで残すことの困難さに腕をこまねいていた私は、たとえ論文などのように厳密な考証に基くものではなくても、多くの人々の証言を集めることによって、何かが見えてくるのではないかと考え、早速名栗村のブッポウソウに関する一文を書きあげ、送っていただいた。

全国からの反響も相次ぎ、結果として、北海道利尻島から沖縄県西表島まで、102人の会員たちから、夏鳥たちの危機をなまなましく伝える緊急レポートが届けられた。

その後ふとしたことから私が遠藤氏と出版社の橋渡しをつとめることになり、表紙や本文中の写真も何枚か提供して、1993年9月、三省堂刊『夏鳥たちの歌は、今』（B6版 262ページ、定価1600円、日本野鳥の会推薦図書）が刊行されたのである。

## ■まず一読して■

出来上がったばかりの本を手に取り、一気に読み上げて、野鳥は減っていないという根拠のない強弁や、どこか緑豊かな所にはたく

さんいるのだろうという幻想などは、これでもまさに吹き飛ばされたという感を深くした。

利尻島では、コマドリが密猟され、家にながら裏の林で聞かれた声が、山の中腹あたりまで足を運ばなければ聞くことができなくなった（小杉和樹）。石川県小松市では、シギ・チドリ類の楽園がゴルフ場と化した（矢田新平）。奈良の春日山原始林ではアカショウビン、ミゾゴイなどが消え、オオルリ、キビタキなどは激減している（小船武司）。

ばらばらとページをまくっただけでも、そんな証言が、これでもかこれでもかと迫ってくる。

## ■どんな鳥について書かれているか■

ただひと通り読んだだけで終りにしたくない。この証言集を、さらに別の読み方ができないものかと、まず、減った鳥として取り上げられている種を、リストアップしてみた。文意から減少している種として書いているのだろうとは思われても、明確に「減少している」と書かれてないものは省いた。それでも、その数は13目32科90種にも及んだ。

90種を、記載回数別に一覧表にまとめたのが、表1である。

1回だけの記載でも、例えばクマゲラなどのように、もともと個体数が少ないものは、その1回の記載が重要なものであり、回数だけでは判断できないことを十分承知しているながらも、この表を見ると、いくつかのことに気づく。

上位回数の種には、森林に強く依存するタイプが多い。

表1 減った鳥として記載された鳥種の記載回数別一覧表

回	鳥種名
13	ヨタカ サンショウクイ サンコウチョウ
12	オオルリ
10	アオバズク クロツグミ
9	コサメビタキ
8	アカショウビン
7	カッコウ
6	ブッポウソウ オオヨシキリ
5	ヨシゴイ サシバ コマドリ コヨシキリ センダイムシクイ
4	ヒクイナ バン ツツドリ ホトトギス コノハズク ヒバリ アカモズ セッカ
3	ミゾゴイ コアジサシ ツバメ ヤブサメ
2	カイツブリ チュウサギ オオヨシゴイ ミサゴ タマシギ フ クロウ カワセミ チゴモズ ミソサザイ コルリ ノビタキ トラツグミ アカハラ ウグイス メボソムシクイ スズメ
1	ササゴイ ゴイサギ サンカノゴイ トビ イヌワシ クマタカ オシドリ マガモ ミコ アイサ エゾライチョウ ウズラ ヤマドリ オオバン コチドリ シロチドリ ツルシギ ヤマシギ オオジシギ カンムリウミスズメ ジュウイチ シマフクロウ クマゲラ アオ ゲラ ヤイロチョウ イワツバメ イワミセキレイ キセキレイ ビンズイ モズ カワガ ラス ノゴマ イソヒヨドリ マミジロ エゾムシクイ キビタキ ゴジュウカラ ホオア カ シマアオジ ノジコ アオジ クロジ オオジュリン コイカル コムクドリ オナガ ホシガラス

表2 野鳥減少原因の記載回数別一覧表

回	原因
22	地域全般の開発
10	水辺の開発
9	越冬地の森林減少
6	自然林の伐採
5	密猟
4	公園整備
3	農薬散布
2	水田減少
1	営巣木枯死 オフロード車 有害鳥獣駆除

全国の豊かな生態系を誇る森林が急激に減少していく。あるいは形だけ森林が残っても、周囲の環境変化で生態系は破壊されていく。東南アジアの熱帯雨林が次々伐採され、それを頼りに越冬のために渡っていく野鳥たちは、生き延びることができない。そんな状況がありありと浮び上がってくる。

オオヨシキリ、ヨシゴイなど、水辺に生息する種がそれに続いて目につく。

豊かな命が息づいている葦原が、次々とコンクリート護岸に姿を変えていく。河川敷はゴルフ場が変わっていく。そんな自然破壊の状況を明らかにしているのだ。

■夏鳥が減った原因は■

では、著者たちは、夏鳥が減った原因をどのように考えているのだろうか。

文章中にこれが原因ではないかと書かれているものをある程度パターン化し、回数別にまとめてみたのが、表2である。

やはり、「地域全般の開発」による環境変化を原因と考えるものが何よりも多い。「水辺の開発」「自然林の伐採」も含めて「地域の開発」としてとらえると合計38回となり、原因について言及している文章の大部分を占

めることになる。これは当然と言えるかもしれないが、私は、「越冬地の森林減少」の9回という数字にも注目したい。

熱帯雨林の減少による影響は、未だ科学的に立証されたわけではないが、多くの人たちが納得できるつながりとして考えていることを物語っているのだ。

オフロード車によるコアジサシのコロニーの壊滅(関道宏)、有害鳥獣駆除によるバンの激減(林正敏)なども報告されている。

■私にできることは■

炬燵でのんびりしようと思ったのに、心が寒く、頭が熱くなってしまった。

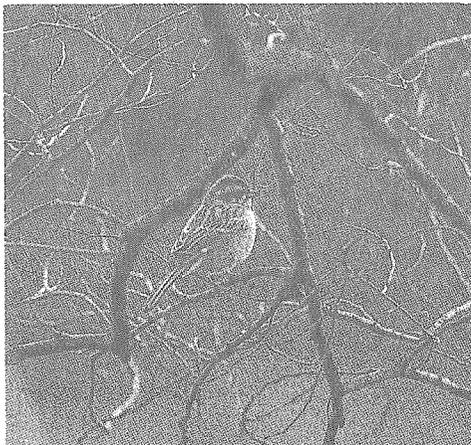
遠藤氏は『あとがき』で、「豊かでありさえすればいい、急速な発展を遂げる我々の営みのどこかに、致命的な欠陥があるのだ」と書いている。102人の証言に一度にこたえる特効薬はない。私にできること、やるべきことはとあらためて考えるとき、実は目の前の探鳥会やパネル展など、支部の普及活動を着実に継続し、自然の命を大切に思う心を、ひとりまたひとりとなつないでいき、やがて社会全体のうねりとしていくこと、それが最も重要だと、思いを新たにしている。

川田谷探鳥会に参加して  
小5 長谷川 由宇 (清瀬市)

11月14日(日)にぼくは、近所に住んでいる吉本さんと一緒に桶川市川田谷探鳥会に参加しました。朝少し雨がふっていたので心配していたのですが、出発する頃にはすっかり上がって青空も少し見えるようになりました。鳥の出もなかなか良く、最初から、ジョウビタキ、ホオジロ、モズというようにポンポンと出ました。本命のタゲリもじっくりと見られとてもとてもうれしかったです。

他にもクサシギやオオタカ等もでて、言うことはなかったんですが、一つだけやしいことがありました。そのことは田んぼの中にあるタシギを見ている時に起こりました。

7羽か8羽いるタシギの中の1羽をぼくが、観察しているといきなり田んぼの中からドジョウをつかまえゴクッと一飲みにしたのです。ピチャピチャして太くて、くちばしにからみついたのですから絶対ドジョウです。それなのに吉本さんは信じてくれなくて「ミミズだ。ミミズだ」って言い張るのです。ぼくが「長かった」って言うと、近くにいた大きなミミズを指差して「ミミズだって長い」と言うのです。「くちばしにからみついた」と言えば「ミミズだってそうする」と言うのです。絶対ドジョウなんですけど…。でも本当にとっても楽しい探鳥会でした。



ホオジロ (熊谷 鉄雄)



タゲリ (宇賀神 若人)

コガモはコガモ?  
陶山 順子 (浦和市)

野鳥といえばスズメとカラスとハト位の区別しかつかなかった私が、野鳥の会に入会している主人につれられ三室へ1回、このたび2度目で奥日光探鳥会に参加しました。

当日はあいにくの雨で鳥はいつもよりずっと少なかったようですが、戦場ヶ原のコケのついた様な枯木に小さな赤い実がなり、その一つ一つについた雨の粒がキラキラ光りそれはそれはきれいでした。

皆さんはベニマシコにあいたいとか、キバシリがいたとか、あれはノスリだとかはじめてお耳にかかる名前?ばかり、主人は遠視、私は近視で教えられても「どどこ」と双眼鏡をのぞいているうちにいなくなってしまう。カワガラスとマガモだけは近くでゆっくりみられました。

コースも最後の頃、湯川の流りに茶色の可愛い鳥が4羽、主人が「コガモだ」といいましたので、「わっかわいい!でも親ガモはどこにいるの」、Aさん「本気でいってるの、ふざけてるんじゃないの」。主人「あれがコガモの親なんだよ」。私「??」。つまり私の頭の中にはカルガモ親子の行進みたいに先頭に親ガモがいて後について泳ぐのがコガモかと思ったのです。「雨の中を親にはぐれてかわいそうにね」とまだまったく判ってない私。コガモという種類のカモがいたことをはじめて知ったのです。

## もうひとつのボランティア活動

岡安征也（北本市）

その日、小さな胸に期待と不安をいっぱい  
つめこんでその娘はやってきた。彼女を待つ  
私達の心境は転校生を迎えるクラスメートと  
いったものだった。

彼女はマレー人のイスラム教徒。戒律に依  
り牛・豚肉、酒類及びこれらの加工品・スー  
プを摂ることが禁じられている。日本に来て  
間もないザリナ・アリアスさんにとって食事  
は大問題であるに違いない。私は妻と協力し  
2日間このテーマに取組んでみたいと思った。  
食材選び、料理法そして食べ方について彼女  
が知恵を得る手助けができれば、そして多く  
の味覚体験を積ませてあげられたら……。

スーパーマーケットでの買い物と試食。我  
家での手巻き寿司、自分で揚げた天婦羅、努  
力して食べてみたラッキョウと梅干し、茶道  
のお点前への挑戦。そして自ら進んでやって  
くれた皿洗い。頑張ったねザリナ！

健気な貴女にこころから拍手を送ります。

ザリナの母国語はマレー語。学校で習った  
英語。2年間一生懸命学習したであろう日本  
語。漢字も書けるなんて素晴らしい。それに  
ひきかえ我々の英語力の何と貧弱なこと。英  
英・英和・和英3種の辞典を手元に置いての  
語らいで若きアジアとの出会いを充分実感す  
ることができた。更に、私の父がフィリピン  
で戦死した事、米国でなく日本を留学先に選  
び祖父母に反対された事、それらの事柄に話  
がおよんだあの時、『心が通じた！』熱いも  
のが胸にこみあげてきました。

丸山公園でコゲラを見つけた時の豊かな表  
情の愛らしかったこと。カメラのファイン  
ダーに映った自然な笑顔もすてきでした。

彼女の毅然とした態度は立派な外交官を思  
わせるものだった。ちょっぴり疲れたホスト  
ファミリー初体験。ザリナの人柄によって楽  
しいときを過ごすことができた。それはマ  
レーシアからの心温まるプレゼントでもあ  
った。

彼女が帰って行った夜の二人の会話—  
「淋しくなったね。また来てくれるといい  
ね」



先日、庭にゴイサギが来ました。  
ニャン子ちゃんを抱っこして見せて  
あげたところ、何と、ふるえているの  
です。モズやジョウビタキを見ると、  
アッ、アッと鳴くのですが…  
大きい鳥は、こわいのでしょうか。  
怖くない猫です。  
一度、ツミがフェンスにとまっていた  
時は、私も驚きました。  
この冬は、今までと違うお客様が  
期待できそうです。

(押川 歳子)

## 昆虫採集と日本野鳥の会

渡邊光行（浦和市）

昆虫採集について114号にて屋崎さんの意  
見を拝見しました。昆虫採集者として私もほ  
ぼ同じ考え方には立っていますが、私の考え  
方は短い文ですが『しらこぼと』85・  
101号に載せて頂いた内容です。重複します  
ので割愛しますが、参考に見ていただければ  
幸いです。

ほぼ私の文が『しらこぼと』に掲載されて  
いた時期に日本野鳥の会で「日本野鳥の会の  
理念と活動」という冊子が出来ました。文中  
7ページに「しかし、人間が生存するために  
一獣一鳥一虫たりとも捕ってはいけないとい  
うことではなく、無闇に殺生してはいけない  
ということである」とあります。

私達は昆虫愛好者の立場の意見も十分に聞  
いた上で、野鳥愛好者の立場で採鳥会を行う  
必要もあると思います。その中からモズのは  
やにえのコレクションや鳥が運ぶ種子のコレ  
クションが現れたら、とても素晴らしいこと  
だと思います。



# 野鳥情報

カワウ (コロニー) ◇桶川市川田谷、上尾領家工業団地の西側付近の森。1993年2月頃からカワウが出入りしているのに気づき、9月19日に写真撮影。100羽以上いるようだ (徳永龍雄)。

チュウサギ ◇9月10日、川越市の伊佐沼の南の田んぼでダイサギとともに1羽 (中司隆由)。◇9月15日、坂戸市入西の調節池で5羽 (増尾隆・節子)。◇9月28日、春日部市不動院野で1羽 (石川敏男)。◇10月2日、富士見市水子の柳瀬川左岸の田んぼで1羽 (中村治)。

コガモ ◇9月15日、浦和市下大久保鴨川排水機場で約250羽 (登坂久雄)。

ツツドリ ◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽 (横山初夫)。

シマアジ ◇9月15日、大宮市三橋の鴨川第一調節池でコガモの群れの中に♀タイプ1羽 (浅見健一)。◇9月15日、行田市の休耕田で♀タイプ3羽。盛んに水中に顔を入れ餌をついばんでいた (鈴木博志)。

ミサゴ ◇10月2日、幸手市外国府間の権現堂で1羽。急降下ダイビングをする (秋間利夫)。

ハチクマ ◇9月26日午前11時頃、富士見市鶴瀬駅上空で1羽。カラス1羽と共に旋回。西の方角に飛んでいった (入沢直子)。

オオタカ ◇9月24日、本庄市の阪東大橋下幼鳥1羽。スズメを捕える (井上幹男)。



カワラヒワ (登坂 久雄)

チョウゲンボウ ◇9月26日、富士見市の新河岸川、岡坂橋上空で1羽 (中司隆由)。◇9月27日、幸手市木立の中川で2羽 (秋間利夫)。

タマシギ ◇9月17日、熊谷市の休耕田で♂♀各1羽 (鈴木博志)。

ムナグロ ◇9月15日、熊谷市の休耕田で20羽以上 (鈴木博志)。

ダイゼン ◇9月16日、本庄市の阪東大橋下流で1羽 (町田好一郎)。◇9月30日、深谷市の上武大橋下流で6羽 (井上幹男)。

キョウジョシギ ◇9月15日、本庄市の阪東大橋下流で2羽 (町田好一郎)。

トウネン ◇9月15日、熊谷市の休耕田で1羽 (鈴木博志)。◇10月2日、幸手市木立の中川で1羽 (秋間利夫)。

オジロトウネン ◇9月18日、浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽 (渡辺喜八郎、新堂克浩)。

ウズラシギ ◇9月18日、浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽 (渡辺喜八郎、新堂克浩)。

ハマシギ ◇9月16日、本庄市の阪東大橋下流で13羽 (町田好一郎)。

エリマキシギ ◇9月15日、行田市の休耕田で3羽。盛んに水浴をしていた (鈴木博志)。◇9月18日、浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽 (渡辺喜八郎、新堂克浩)。

コアオアシシギ ◇9月16日、本庄市の阪東大橋下流で1羽 (町田好一郎)。◇9月19日、川里村屈巢交差点付近の休耕田で1羽 (鈴木博志)。

アオアシシギ ◇9月16日、本庄市の阪東大橋下流で7羽 (町田好一郎)。◇9月19日、川里村屈巢交差点付近の休耕田で3羽 (鈴木博志)。

オグロシギ ◇9月16日、本庄市の阪東大橋下流で1羽 (町田好一郎)。◇9月19日、川里村屈巢交差点付近の休耕田で5羽 (鈴木博志)。

タシギ ◇9月15日、熊谷市の休耕田で50羽以上 (鈴木博志)。◇9月15日、富士見市水子の柳瀬川左岸の休耕田で4羽 (中村治、渡辺敦、神場真文)。

アカエリヒレアシシギ ◇9月16日、本庄市の阪東大橋下流で18羽 (町田好一郎)。

ツバメチドリ ◇9月16日、深谷市の上武大橋下流で2羽(井上幹男)。  
 カモメ ◇9月30日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。  
 クロハラアジサシ ◇10月2日午前9時頃、浦和市堤外荒川第一貯水池で2羽。夏羽から冬羽に変わる中間羽。午後4時過ぎに南方に飛び去り、翌朝は発見できなかった。ビデオ映像あり(海老原美夫)。  
 カッコウ ◇9月16日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。  
 ホトトギス ◇9月20日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。  
 アオバズク ◇10月3日、浦和市大間木の氷川神社で1羽(工藤洋三、篠原東彦他)。  
 カワセミ ◇9月11日、浦和市南部領辻の総持院の斜面林下を上流へ1羽(大武昭雄)。◇9月15日、浦和市下大久保、鴨川排水機場で2羽(登坂久雄)。◇9月15日大宮市三橋の鴨川第二調節池で♂1羽(浅見健一)。◇9月20日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。◇9月28日、春日部市不動院野で2羽(石川敏男)。  
 アリスイ ◇9月18日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。◇10月2日、浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽(細井要)。  
 アオゲラ ◇9月15日、富士見市水子、浦所バイパスの北側で鳴く(渡辺敦)。  
 ショウドウツバメ ◇9月15日、富士見市水子の柳瀬川左岸の田んぼ上空で約30羽(中村治、渡辺敦)。◇9月26日、幸手市木立の中川で群れで飛び回る(秋間利夫)。  
 ノビタキ ◇9月15日、富士見市の柳瀬川左岸の田んぼで2羽(中村治、渡辺敦)。  
 ヤブサメ ◇9月15日、三峰山で1羽。「チ

ャッ、チャッ」と鳴きながら藪の中を移動。目前約7m位の処に出てくれて、夫婦そろってラッキー(山岸昭治)。  
 コヨシキリ ◇9月16日、深谷市の上武大橋下流で1羽。さえずる(井上幹男)。  
 キビタキ ◇9月15日、三峰山で♂2羽(山岸昭治)。  
 エゾビタキ ◇9月20日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。  
 コサメビタキ ◇9月6日、戸田市道満の釣り堀横の林で3羽(高橋達也)。◇9月22日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。  
 サンコウチョウ ◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♀1羽(横山初夫)。  
 キバシリ ◇9月15日、三峰山で1羽(山岸昭治)。  
 シマノジコ? ◇10月4日午後4時15分頃、川口市差間のJR武蔵野線、芝川鉄橋脇の架線と平行した電線上で♂1羽。頭部から背にかけて赤茶色。胸から腹は鮮やかな黄色。風切羽の縁が黒っぽく、くちばしはカワラヒワのようで黒く、付け根がピンクがかって見えた。写真を撮ろうとしたが飛ばれてしまった。(松本達夫他)。  
 コムクドリ ◇9月19日、浦和市秋ヶ瀬の秋ヶ瀬橋付近でムクドリの群れ中に2羽(横山初夫)。◇9月24日、大宮市東大宮4丁目の自宅そばの電信柱のてっぺんに♂1羽。しばらくとまって「キュルキュル」と鳴いていた(墨江雄三・光子)。  
 カケス(渡り) ◇10月2日午前10時30分、本庄市の阪東大橋から約1km下流で男体山方向より利根川を横切り陣見山方面へ2羽。続いて11時頃、7羽、4羽、3羽と青空の中へパタパタと消える(町田好一郎)。

表紙の写真

ウグイス(ヒタキ科ウグイス亜科)

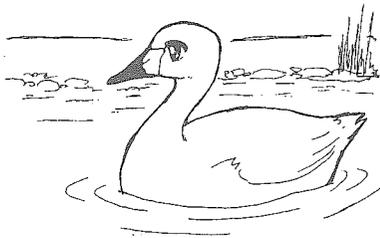
12月から4月にかけて毎年来る庭の常連である。本当は梅の花があまり好みではないらしいのだが、牛脂とジュースのカップを紅梅に吊しておいたら、「梅に鶯」を撮影することができた。

ネイチャーフォトコンテスト 1993 入選作

8月中に来て、ホーホケキョと聞かせることもある。

浦和市岸町の自宅庭にて ニコンF3 ニッコール 500mm F4 P 絞り開放 1/30秒 P K L 佐藤信治(浦和市)

# 行事あんない



(渡辺 敦)

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月9日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03  
発に乗車

担当：菱沼(一)、森本、関口、菱沼(洋)、斉  
藤、塚本、中島(章)、小池、和田、石  
井(博)

見どころ：朗報！明戸堰上流が禁猟区になり  
ました。コハクチョウやカモ達も安心  
して翼を休めている事でしょう。

## ガン・カモ類一斉調査

期日：1月15日(土・祝)

集合：午前9時

今年もカモ類の県内一斉調査を実施致しま  
す。多くの会員のご協力をお願いします。

◇ 久喜市・昭和池

集合場所：昭和池駐車場

担当：中島康夫、松井昭吾

◇ 所沢市：狭山湖

集合場所：狭山湖堤防の上

担当：三田長久

解散は昼近くの予定。雨天決行です。

ご自分のフィールドでカモ類の調査をされ  
た方は、種別のカウントデータを、1月30日  
までに下記宛お送りください。

送付先：

三田長久

## 本庄市・阪東大橋探鳥会

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予  
約申込みの必要はありません。受付は探鳥会  
当日。参加費は一般100円。会員及び中学生  
以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、  
ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行で  
す。解散時刻は、特に記載のない場合、正午  
から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会  
埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当  
者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私  
達もあなたを探していますので、ご心配なく。

期日：1月15日(土・祝) 成人の日

集合：午前9時 JR高崎線本庄駅北口

交通：JR高崎線大宮7:41発に乗車

担当：町田、林(滋)、菱沼、小淵、小野沢、  
関根、塚本、中島(章)、小池、和田、  
石井(博)

見どころ：長旅を終えた鳥たちにも、きっと  
「成鳥式」の出席者はいるはず、探し  
て見ましょう。ついでに「ガン・カモ  
調査」もやっちゃいますか？カウン  
ターをご持参下されば助かります。

## 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：1月16日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東  
口(集合後、バスで現地へ)または、  
午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、  
伊藤、田口、岡部、嶋田、倉林

見どころ：新年おめでとう！今年も三室の鳥  
に感謝して、楽しい鳥見をやりたいも  
のです。支部の原点の探鳥会、冬鳥  
オール勢揃いの三室へどうぞ。

## 吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：1月16日(日)

集合：午前9時30分 東武バス停百穴入口  
(その後徒歩で吉見百穴へ移動)

交通：JR高崎線鴻巣駅東口(東海銀行の前)  
より東武バス8:53発に乗車

担当：榎本、内藤、岡安、吉原、立岩、逸

見、関口、中島(康)

見どころ：静かな湖面にカモ、澄んだ冬空の高みにはタカの勇姿。里の小鳥たちも勢揃いしていますよ。

#### 狭山市・人間川探鳥会

期日：1月23日(日)

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

担当：長谷部、三田、石井(博)、佐久間、柳原、小野、山本、中村(祐)

見どころ：ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、タヒバリ、ビンズイ、5種のセキレイの仲間を探しましょう。

#### 久喜市・昭和池探鳥会

期日：1月23日(日)

集合：午前9時 JR宇都宮線白岡駅北口

または、午前9時45分 昭和池駐車場

担当：中島(康)、松井、林(慎)、浅田、小林(恒)、五十嵐、入山、山岡

見どころ：県内有数のカモの飛来地です。今迄のガンカモ調査で7000羽以上カウントされた事もありました。トモエガモも毎年見られています。

#### 川口市・差間探鳥会

期日：1月23日(日)

集合：午後2時45分 JR武蔵野線東浦和駅前

解散：午後5時頃

担当：手塚、伊藤、笠原、田口

見どころ：サギ、カラスがねぐらに帰るころ、これから活動を始める夜行性の鳥に今回こそ会って見たいですね。

#### 「しらこぼと」袋づめの会

とき：1月29日(土) 午後1時~2時ごろ

会場：支部事務局 108号室

#### 野鳥写真クラブ定例会

とき：1月29日(土) 午後2時ごろ~5時

会場：「しらこぼと」袋づめの会と同じ

#### 群馬県 裏妙義探鳥会

期日：1月29日(土)

集合：午前9時20分 JR高崎線横川駅改札口

交通：大宮6:56発各停又は大宮7:35発新特急谷川1号に乗車、高崎で各停8:39発に乗り換え

担当：松井、中島(康)、草間、桜庭、新堂、小林(み)

見どころ：イヌワシを訪ねて舗装路を約5km歩きます。途中の妙義湖でオシドリは何羽いるかな。防寒対策は万全に。

#### 千葉県 銚子港探鳥会

期日：1月29日(土)~30日(日)

若干名ですがまだ間に合います。12月号の9頁をご覧の上、迷わずお申し込み下さい。

#### 長瀨町・長瀨探鳥会

期日：1月30日(日)

集合：午前10時10分 秩父鉄道長瀨駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、又は西武線所沢7:44発→秩父鉄道お花畑9:21発乗車

解散：午後2時頃、白鳥荘にて

担当：佐久間、内藤、町田、立石、関根、青山、岡野、小池

見どころ：澄んだ空気の中、広い荒川の岩畳や流れに眼を向けるとオシドリやカワセミ、それにヤマセミも登場するかも。

#### 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月30日(日)

集合：午前8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口  
(集合後現地までバス利用)

担当：中島(康)、浅田、入山、小林(恒)、山岡、吉田(芳)、中村(榮)、吉安

見どころ：アオサギ、ジョウビタキ、アオジなどの水辺の鳥、林の鳥との出会いを楽しみにゆっくりと巡ります。

2月5日(土) 大宮市民の森探鳥会

6日(日) 北本市・石戸宿探鳥会

深谷市・仙元山公園探鳥会

11日(金・祝) 上尾市・丸山公園探鳥会

2月19日(土) 湊沼・大洗探鳥会(日帰り要予約、12頁参照)

# 行事報告

91年6月29日『しらこぼと』袋詰めの会

ボランティア：11人

岩波勇一、海老原美夫、神場真文、草間和子、鈴木啓紀、鈴木秀男、墨江光子、中村治、平野樹夫、渡辺敦、渡辺喜八郎 大変遅くなりました。行方不明になっていた参加者名簿が、書類の間からヒョッコリ出てきたのです。

9月5日(日) 本庄市 阪東大橋

参加：44人 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ ミサゴ トビ ハイタカ イカルチドリ シロチドリ イソシギ アジサシ キジバト アマツバメ カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 台風13号は無事通過したが、コースが水浸しで、一部通行不能。阪東大橋下まででホオジロが出たのみ。ちょっと一休みのつもりが、日向は残暑が厳しくてなかなか出発できない。何とかスタートした直後に『ミサゴ』が出現。帆翔を確認中に今度は『ハイタカ』が突然現われる。さあ大変!!ムード一気に盛り上がる。現金なもので、水際までの足取りが軽い。ここで、カワセミ、アジサシなどをじっくり観察し、逃げるように再び橋の下に潜り込み、鳥合わせを行う。ニューリーダーが活躍してくれて、大助かりだった。(町田好一郎)

9月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加：44人 天気：曇

ダイサギ コサギ アオサギ トビ コジュケイ キジ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセ

キレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 去年は日照り続きで、河原は干上がっていたが、今年は長雨や台風で大増水。シギ・チドリの姿が全く見えない。しかたがないので、野鳥の森へ向かう。途中、キジの雄が姿を見せてくれたが、野鳥の森でもシジュウカラの声が聞こえるだけで、その姿を見せてくれない。キツリフネ、ヤブミョウガ、カワラナデシコの花やナガコガネグモの巣を観察しながら歩く。ようやく終わりの頃、コゲラやホオジロをよく観察できた。普段見慣れたダイサギがとても清楚で神々しく見えた。(菱沼一充)

9月19日(日) 浦和市 三室地区

参加：51人 天気：晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アマサギ カルガモ コガモ オナガガモ バン イソシギ キジ シラコバト キジバト ツツドリ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ ノビタキ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 秋晴れの見沼田圃を歩いた。モズが高鳴きをして、ツツドリが低く、黄金色をした稲穂の上を、飛んでいた。サシバやエゾビタキが出現せず、残念だったが、楽しい探鳥会であった。

(楠見邦博)

9月23日(木、休) 寄居町 鐘撞堂山

雨天のため中止。

9月25日(土)『しらこぼと』袋詰めの会

ボランティア：12人

赤塚義正、海老原教子、海老原美夫、遠藤薫

工藤洋三、篠原東彦、下川礼子、新堂克浩、  
墨江光子、中村榮男、渡辺敦、渡辺喜八郎

9月26日(日) 狭山市 入間川

参加: 22人 天気: 晴

カイツブリ コサギ カルガモ コガモ ト  
ビ サシバ キジ イカルチドリ イソシギ  
キジバト カワセミ ツバメ キセキレイ  
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ  
モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ  
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブ  
トガラス (24種) 夏は、いったいどこへ? 梅  
雨が明けぬまま秋になってしまったような異  
常気象。最近やっと天気も安定しだし、太陽  
のありがたさをつくづく感じている。今日も  
好天に恵まれ、コガモ、カワセミ、サシバと  
現われ、いい一日になるのかなと思われた。  
しかし、その後は、ヒバリやコゲラ、今月の  
見どころだったヒタキの仲間も見られず、ち  
よっと物足りない探鳥会。(長谷部謙二)

10月3日(日) 川口市 差間

参加: 52人 天気: 曇

ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ  
カルガモ コガモ チョウゲンボウ コチド  
リ クサシギ タカブシギ イソシギ タシ  
ギ ユリカモメ キジバト ツツドリ ヒバ  
リ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ  
ヒヨドリ モズ ノビタキ シジュウカラ  
カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガ  
ラス ハシブトガラス (28種) あたり一面の  
稲穂の中、例年になく多かったノビタキを十  
分に観察。ツツドリも間近でバッチリ観察で  
きたのですが、長旅前の休息の場を52名もの  
大勢の人たちが注目。ツツドリ君、驚かせて  
ごめん。長旅の無事を祈ります。(手塚正義)

10月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 48人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ ア  
オサギ カルガモ コガモ トビ タカSP  
コジュケイ シギSP キジバト カワセミ  
アカゲラ コゲラ ヒバリ ショウドウツバ  
メ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハク

セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ  
ノビタキ エゾビタキ シジュウカラ メジ  
ロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ  
ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブ  
トガラス (36種) 野鳥の森から、旧押切橋へ  
のコースを歩いた。荒川の増水で、河原に出  
られない所もあったが、期待していたノビタ  
キも見られたし、まずまず。なお、参考記録  
とした「ノスリ?」は、複数の方が見ておら  
れたので、タカSPと記録すべきでした。訂  
正いたします。(森本國夫)

10月11日(月、休) 北川辺町渡良瀬遊水池

参加: 123人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ ア  
オサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オ  
ナガガモ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ  
チュウヒ チョウゲンボウ タカSP キジ  
アオアシシギ イソシギ カモメSP キジ  
バト アマツバメ カワセミ ヒバリ ショ  
ウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ モズ シ  
ジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ  
ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス  
ハシブトガラス (37種) 絶好の探鳥日和で、  
参加者がなんと123人。当支部の探鳥会では  
最高と思われる人数にリーダーはてんてこま  
い。なんとか車に分乗し、スタートできた。  
青空高く舞うオオタカやノスリ、ミサゴを堪  
能し、又、ヒヨドリやカケスが群れて渡る姿  
も見られた。車で参加した皆様。ご協力あり  
がとうございました。(中島康夫)

10月17日(日) 浦和市 三室地区

参加: 34人 天気: 雨

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コ  
ガモ オナガガモ バン イソシギ キジバ  
ト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ  
ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガ  
ラス ハシブトガラス (18種) 雨、あめの探鳥  
会でした。結婚式参列のためお休みの常連海  
老原副支部長の準備してくれたビデオ「浦和  
市のツミの子育て」を放映し、楽しい一時。  
後は、雨の芝川まで一巡り。結果として有意  
義な探鳥会になりました。(楠見邦博)

連絡帳

●海外カスミ網罟調査費用に寄付

前月号「地鳴きコーナー」で紹介した遠藤公男氏（今月号特集も関連）の海外カスミ網罟調査について、11月23日（火）の支部役員会で議論を重ね、当支部として費用5万円を寄付することとなり、早速送金しました。

●第4回オオタカ保護シンポジウム

テーマ ①東日本最大のワシタカ類の越冬地—渡良瀬遊水地—の視察 ②オオタカ保護活動・ハイタカ属の生態報告 ③里山や湿地に生息するタカ類—オオタカ、サシバ、チュウヒ—の生態と保護

内容 特別講演「アメリカにおけるワシタカ類—特にハヤブサの保護」カリフォルニア大学ジェイソン・ミントン氏、など。

主催 オオタカ保護ネットワーク・日本野鳥の会栃木県支部

後援 (財)日本野鳥の会ほか

期日 1994年1月22日(土)～23日(日)

会場 栃木県小山市 古城園(懇親会宿泊) 市文化センター・中央公民館(シンポジウム)

費用 全日程宿泊参加12,000円 部分参加懇親会 4,000円など

申込み 1月17日締切り。はがきで〒320 宇都宮市星ヶ丘2-2-10-101、栃木県支部まで。参加日程や宿泊の有無も明記。

●ご寄付ありがとうございました

阿津澤栄二 3,000円、浦和市立郷土博物館親子探鳥会リーダー一同13,000円、神山和一郎 2,000円、坂井和子 1,000円、匿名 8,000円、渡辺敦 8,000円。(50音順、敬称略)

●1月の土曜日当番(2時～6時)

- 1日 事務局休み
- 8日 田口浩司 小野光明
- 15日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 22日 桜庭 勇 藤野富代(校正の日)
- 29日 袋づめの会(1時から)

はみだし行事案内

■ 涸沼・大洗探鳥会(日帰り・要予約) ■

期日: 2月19日(土)  
集合: 午前7時 大宮駅東口あさひ銀行前  
交通: 貸し切りバス  
費用: 7000円(交通費・保険料・参加費等)  
定員: 40名(先着順、県支部会員優先)  
担当: 中島(康)、松井、楠見、立岩  
申込み: 通常葉書に住所・氏名・電話番号を明記の上、中島康夫まで。

見どころ: 涸沼ではオジロワシやカワアイサ、大洗ではシノリガモ、クロガモが期待できます。

● 会員数は

12月1日現在 2,320人です。

活動報告

- 11月1日 11月号発送。
- 11月9日 埼玉新聞連載『埼玉自然見て歩き』第21回～30回分入稿)
- 11月13日 研究部会議。編集会議。
- 11月14日 バードソンチーム打ち上げ会。
- 11月20日 12月号校正(海老原美夫、大武昭雄、工藤洋三、内藤義雄、中島章二)。
- 11月23日 役員会議(司会・笠原伸子、各部の報告・バードソン結果報告・関東ブロック会議と評議員会の出席者・パネル展などの見直し・その他)。

編集後記

行事案内欄を楽しみに支部報を手にする人が多いと思います。私もその一人でした。ところが、小林みどり幹事より引き継いで12月号から同欄を担当することになってからは、何かミスをしていないかと、おそろおそろ見るはめになってしまいました。編集会議で1月号の割付けが終って、ひとまずホッとしたところです。前任者同様に、よろしくご支援ください。(内藤義雄)

『しらこぼと』1994年1月号(第117号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町 107号 郵便振替 東京9-121130  
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用